

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート名切		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日	～	令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日	～	令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な専門職の職員が多数従事している。	各専門分野の職員がチームを組んで日々の療育内容を考慮し、実践している。	支援内容や専門職の質の向上を図るため、研修会への参加や事業所内でも、職員研修を実施していく。
2	職員同士の情報共有を徹底している。	朝礼・終礼を始め、小さな事案も職員同士で共有し、業務日誌にも反映させている。携帯からでも確認出来るシステムで対応している為、参加出来なかった職員も周知出来ている。	月1回、全体ミーティングを行い、月間スケジュールチェック等を行っていきたい。
3	農業体験「チャイルド畑」	農業体験を通して、五感を育ませ、自然との触れ合いを取り入れている。	2年目になる次年度は、家族・きょうだい児との参加を取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない。	地域のイベント情報を収集できていない。また時間や年齢的な条件が重なり参加に至っていない。	情報集の徹底と、事業所側からの発信しが出来ないか検討していく。
2	ワンフロアで仕切りがない為、学習・余暇活動の構造化が出来ていない。	構造上の課題がある。	構造上の問題はあるが、限られた空間を最大限活用し、視覚的・物理的に構造化を図っていく。
3	保護者会が少ない。	年に1回程しか実施出来ていない。また保護者同士、きょうだい児さんとの交流が少ない現状がある。	チャイルド畑や体育館活動などで、保護者・きょうだい児さんとの交流を計画していきたい。

公表

## 放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表日 令和7年 2月 15日

事業所名	チャイルドハート名切				公表日	令和7年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			基準以上のスペースは確保しているが、構造化がされておらず、今後の課題となっている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		利用児の人数に応じて、職員を配置している。	時間帯（送迎業務）によっては、職員が手薄になることがあるので、改善していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4		学習・余暇活動スペースの境界線が視覚化されておらず、パーテーション等で視覚的に構造化出来る様にしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		時間を見て、トイレチェックを行い清潔に保持することが出来ている。また活動内容に合わせたセッティングを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		利用児の特性や状況に合わせて、別室を活用し、1対1にならないように行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		年二回の振り返りを行い、業務改善や今後の目標に繋げていく計画を立てている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		アンケート調査を実施して、保護者の意向を把握して業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		朝礼・終礼等で情報共有を行い、業務日誌で参加出来なかった職員にも周知できる体制を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		現在、第三者評価は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		事業所内での研修の実施や外部の研修等にも参加している。	外部研修においては、児発管が主に参加しているので、今後は児童指導員の参加を計画していきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所独自の特色を示し作成している。	事業所のホームページで公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		モニタリングの評価やアセスメントを行い、得られたニーズや課題を分析し、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		毎日、朝礼・終礼等で行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		利用児のカンファレンスを通して、共有し支援することが出来ている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		モニタリングでの保護者からの聞き取り、日々の行動観察の中で、確認することが出来ている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		必要に応じて、関係機関と連携を図りながら、支援内容を計画している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		月末に、翌月の活動プロジェクトを企画・立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		四季折々のイベントを取り入れ、利用児と共に活動している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動。小集団活動を取り入れた療育活動を行っている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日朝礼で、利用児の確認・共有事項の周知・役割分担等を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		毎日終礼で、今日の気付き・反省・今後の取り組み等を共有し、業務日誌で他の職員にも周知している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		業務日誌にて記録に残し、必要に応じて関係機関と連絡を取っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に1回モニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7			地域交流と機会の提供においては、事業所の課題取っている為、しっかりと向き合っ対応していきたい。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		常に、選択肢を提供し自己選択・自己決定の支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管を中心に、各担当職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		個別基本情報を下に、主治医と連絡を取れる体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校・保護者・放デイの三者で、連携を図り情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		ときわ事業所と連携を図り、情報収集を行い相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			対象利用児は在籍していなかったが、積極的に情報共有を行ってきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			必要に応じて、機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			必要に応じて、機会を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			今後、参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳・送迎時・電話連絡で発達の状況、課題、問題定義を行っている。	機会を見つけ、交流を図っていく計画していく。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		送迎時にその日の様子を保護者へ伝えている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	4	保護者会の中で、それぞれの悩みを相談する時間を取り、保護者間の交流を図っている。	講師（相談支援専門員や、本部のSV）を招いての、保護者会を企画していきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		利用契約の際に説明を行っています。疑問点があれば、その都度説明をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		半年に1回モニタリングの中で、利用児・保護者のニーズに合わせ、計画作成を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		半年に1回モニタリングの中で行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			きょうだい同士で交流する機会を計画して行きたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談や申入れがあった際は、迅速に対応し、対策・改善策を行っている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月一、活動報告・行事予定・連絡等をお便り通信を配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付きボックスにて保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		保護者会、親子参加型のイベントを行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			機会がなかったが、今後率先して参加していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		防災訓練を定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		マニュアルを策定し、職員・保護者に周知を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			該当利用児は在籍していないが、体制は整っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			該当利用児は在籍していないが、体制は整っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		年に1回、安全計画年間スケジュール表を配布し周知を行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		各災害（水害・地震・火災）に対して、それぞれの訓練を行っています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		報告書を作成し、職員間で共有し、再発防止に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		年間を通して定期的に、研修を行っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			該当利用児は在籍していないが、体制は整っている。